

# ブック村だより

## 本学コレクション紹介 (27)

ルソー 『政治経済論』② .....	森岡 邦泰(1)
人との出会い、本との出会い .....	宮城 博文(2)
ぶっくす・なう .....	(4)
『エンダーのゲーム』	谷岡 一郎
『カルメン』	塩田 眞典
『経済学大図鑑』	佐和 良作
『英語で説明する日本の観光名所100選』	下山 晃
みなさんからの声にお答えします .....	(6)
データベースを活用しよう「ジャパナレッジLib」 .....	(7)
インフォメーション・開館案内 .....	(8)



## 本学コレクション紹介 (27) ルソー『政治経済論』②

画像：河野健二訳『政治経済論』 岩波書店 1951.9

バラン夫人のもとを離れたルソーは、職を転々としつつ、劇作、詩作、作曲を試み、世に出ようとした。音楽の新しい記法を考案して、科学アカデミーで草案を朗読するが失敗（30歳）。一方パリのカフェで同じく地方から出てきた青年デイドロと知り合う。出世の野心を抱くもまだ無名の青年たちはカフェで文学、芸術、政治などについて時間を忘れて語り合ったであろう。

33歳の時に宿の洗濯女マリー・テレーズと関係を結ぶ。それは自伝によれば初めは「気晴らし」にすぎなかった。その上「決して彼女を見捨てる

こともないが、決して結婚することもない、と前もって宣言した」のであった。結局23年間の内縁関係に入ることになる。デイドロが愛人との結婚を決意したときも、「私のほうは、そんな約束など何もしておかなかったから、あわてて彼をまねる必要はなかった」。テレーズとの間に5人の子供をもうけたが、すべて養育院の戸口に捨てた。さすがに母親は反対したようだが、ルソーは貧困を理由に押し切った。そのルソーは後に子供の教育論で今日に至るまで有名となった。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

## 人との出会い、本との出会い

経営学部商学科 専任講師 宮城 博文

私は今では、必要だったり、読みたいと思う本を古本屋やインターネットでも探すような毎日で、研究室にも本が溢れかえっていますが、常に本が身近にあり、心の支えになっていったのは、海外に住んでからです。私がスペインに留学していた1990年代後半は、電子書籍もなく、インターネットですら、ネットカフェなどへ通いやつと使えるような状態で、今のように、手軽に日本語の本を読むことができませんでした。本が手元にない日々が続き、徐々に人は活字に飢えてくるとその時に知りました。その時、スペインの本屋で出会ったのがブラジル人作家、パウロ・コエリョの『アルケミスト 夢を旅した少年』です。今や全世界で翻訳されている本ですが、本屋で出会った時は、そんなことは知らず、ただ、直感でその本を手に取りました。しかし、スペイン語で書かれたこの小説はその後何度も何度も読み返す素敵な宝物となったのです。スペイン、アンダルシアの平原で羊飼いと住んでいるサンチャゴが、夢の啓示に従って旅へ出る話です。サンチャゴは王様、占い師、錬金術師



何でもないものを金に変えるなど不思議なことができる人のこと) などに出会い、たくさんのことを学び、騙され、傷つきながらも、成長していきます。そして常に人生が「冒険をするか、諦めるか」の選択であることを知ります。「何かを本当に強く望めば、全宇宙が実現のために協力してくれること」「日々の生活の中に前兆があり、その前兆に従ってゆかなければならないこと」、この二つがサンチャゴを推し進めていきます。留学時代、目標を見失いかけたり、将来への不安で押しつぶされそうになったりしたとき、私にもこれらの言葉が背中を押してくれました。

『アルケミスト』を読んだ後、パウロ・コエリョの作品にもっと触れてみたいと、手に取ったのが、彼のデビュー作でもある『星の巡礼』という作品です。スペイン北部にある、サンティアゴ・デ・コンポステーラへと続く巡礼の道を修行や神秘体験をしながら歩いていく物語です。



巡礼の道で主人公が経験し、理解し、身につけていくことは、実際にその道を歩いた人にしか分からないことだと思い、私もいつか巡礼をしてみたと思うようになりました。この巡礼は、スペイ

ン語でEl Camino de Santiago（サンティアゴの道）と呼ばれ、ピレネー山脈から、聖ヤコブの遺骸があるとされるサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指す約900キロの道のりで、毎年十万人以上もの人がこの険しい道のりを歩きます。この巡礼は、様々な映画にもなっています。その巡礼をしたような気分になれる、お勧めの映画が『サン・ジャックへの道』（フランス映画2005年）『星の旅人たち』（アメリカ映画2010年）です。二つの作品とも、巡礼の過程での人間の成長がスペインの素敵な風景と共に描かれています。約一カ月は徒歩でかかる道ですので、私は仕事がゆっくりしたら、のんびりのんびり歩きに行きたいと考えています。

思い返してみると、小さい頃から「旅」の本をよく読んでいた気がします。幼いころはジュール・ヴェルヌの『十五少年漂流記』に夢中になり、同じような年齢の子達が様々な困難に立ち向かいながら旅を進めていく姿に心が躍りました。

高校生の頃は沢木耕太郎の『深夜特急』を繰り返し読み、アジアからヨーロッパへのバックパッカーでの貧乏旅行に憧れました。現実



はなかなかそんな勇気も時間もなく、大学卒業後に、実際、バックパックを背負って行った旅行先で思い出深いのはドイツです。宿泊先も決めずに行っ

たおかげで、ベルリン中央駅でホームレスの人たちと一緒に眠ることになったり、身なりが怪しかったせいか、警官に職務質問されたり（パスポートすら偽装だと疑われたり）、私にも色々な困難がありましたが、その度に助けてくれたり、優しくしてくれる人がいたり、普段の自分では思いもよらない知恵が湧いたり、「旅」の素晴らしさを感じました。

そして、様々な国を「旅」しましたが、国によって、「おもてなし」の方法も違うと感じるようになってきました。タイでは「微笑み」のおもてなし、トルコでは客人には「ミントティー」を、ドイツでは徹底した「レディファースト（女の人が重いものを持つ時、常に誰かが助けているのを目にしました）」など、自分の目で見てみないと分からないことが多かったです。今、自分が研究の一つとしている「ホスピタリティ」も「おもてなし」の精神とつながっています。日本の外国人観光客が1000万人を超えた現在（2013年）、日本の「おもてなし」＝「ホスピタリティ」をよりよいものへ構築していくために、私は旅へ出て、研究し続けたいと思っています。

最後に、『アルケミスト』に出てくる、私の大好きな言葉を書きます。

「傷つくのを恐れることは、実際に傷つくよりもつらいものだとお前の心に言ってやりなさい。夢を追求している時は、心は決して傷つかない」

常に夢を持ち、そして恐れることなく、旅を続けていきましょう。そして、人生を変えるような宝石の本に出会ってください。

## 『エンダーのゲーム』

(ハヤカワ文庫, 1987.11)  
オースン・スコット・カード 著

子どもの頃の絵本やコミック（および自分でチェックする本）を除き、「人生で一番くり返し読んだ本は？」と聞かれたら、それはオースン・スコット・カードの『エンダーのゲーム』です。ちょうど映画化され、新版で店頭に並んでいるこのタイミングをのがすと、次はいつ紹介できるかわからないので、今ではレジェントとなったこの作品（1985年のヒューゴー／ネビュラ賞）を取り上げます。なぜ今まで映画化されなかったのかは、読めばわかります。

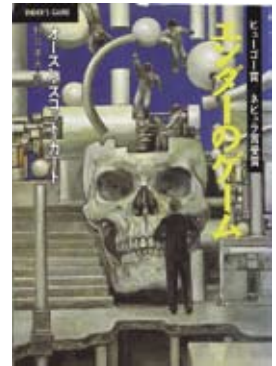
題名からはデジタル時代のSF活劇を予想するでしょう。むろんそれもありますが、本書は主人公の「成長の苦闘」が最も重要なテーマ。幼くして（わずか6歳）家庭を離れ、英才を集めたバ

トル・スクールでエンダーは、「大人は助けしてくれない」、そして「常に自分の力で生き延びなくてはならない」ことを体中に刻み、頭角を表していくのです。

もし『エンダーのゲーム』を好きになれたら、『死者の代弁者』、『ゼノサイド』という直接の続編もあります。これらも優れた作品ですが、外伝の『エンダーズ・シャドウ』と『シャドウ・パペッツ』は単独でもものすごい作品。それらは『エンダーのゲーム』の名脇役たちを主人公としたものになっています。

もう一度言いましょう、私個人の愛読書ナンバー・ワンです。

(学長 谷岡 一郎)



## 『カルメン』

(新書館, 1997.11)  
プロスペール・メリメ 作  
工藤 庸子 訳・解説

今では「カルメン」はオペラの代名詞のようにになっているが、メリメの原作を読む人は数少ない。だが一見素朴なこの中編小説には、妙に心動かされる何かがあるようだ。そのストーリーは以下のとおり。

バスク出身の純朴な兵士ドン・ホセ、その階級は伍長だが、駐屯地セビーリヤで魅力ある謎めいたジプシー女カルメンに誘惑され、それがために軍律に逆らい脱走を余儀なくされる。その後ホセはカルメンの手引きで密輸団に加わり犯罪に手を染めるものの、やがて彼女の心は別の男に移る。恋心を断ち切れないホセは執拗にカルメンにつきまとい復縁を迫るが聞き容れられず、口論の果てに彼女を殺害するに至る。

今風にいえばこれはストーカー殺人事件であ

る。どうして作曲家ビゼーはこのような三面記事めいた話をオペラ化しようと思いついたのか？だが、オペラ化をきっかけに「カルメン」は様々な解釈を生み出してゆく。思うに、この物語には人々を引き付ける要素が二

つ潜んでいる。第一、妖しげな女に翻弄され身を持ち崩す男の話は妙に身につまされる、これはファミ・ファタルという要素、男の視線の産物である。第二、自由に生きようとする女がダメ男に殺められる話、つまり受難劇という要素、こちらは女性の視線の産物であろう。たぶんビゼーはこれらの要素を過敏に嗅ぎ取り、音楽的に補強し拡大させたのであろう。小説とオペラの比較をお勧めする。

(図書館長 塩田 真典)



## 『経済学大図鑑』

(三省堂, 2014.1)  
ナイアル・キシティニー ほか著

イギリスの経済学者が著した読む経済学の図鑑である。経済学の理論は、その時、その時の経済状況に基づいて生み出されてきたという側面がある。アダム・スミスやカール・マルクスは天才的な学者であったが、コンピューターで制御された大規模生産方式を知ったとしたらどのような理論を生み出していたのだろうか。

本書は経済の歴史に沿って進められている。「さあ、交易をはじめよう（紀元前400年～後1770年）」にはじまり、「理性の時代（1770年～1820年）」、「産業革命と経済改革（1820年～1929年）」、「戦争と不況（1929年～1945年）」、「戦後の経済学（1945年～1970年）」、「現代の経済学（1970年～現代）」と続く。

1ページから最終ページまで時間をかけて読破

するというのもよいかもしれないが、適当に興味があるページを開いて読むというのもよいかもしれない。講義で教えられた項目と関連するページを読んでいくというのもよいかも



もしれない。著述は平易で、写真や図表も多く、楽しんで読める（眺められる）ように構成されている。

巻末に簡単な「経済学者人名録」が6ページにわたって付いており、37名が紹介されているが、日本人で掲載されているのは、日本書紀の真实性を否定した、江戸時代の学者「山縣蟠桃<sup>やまがたばんとう</sup>」一人であった。彼は産業と貿易を土台とした近代日本の社会・政治・経済にたいする合理的で科学的なアプローチを提唱したと紹介されている。

(経済学部 教授 佐和 良作)

## 『英語で説明する日本の観光名所100選』

(語研, 2014.3)  
植田 一三 編著

グローバル化と情報化が一挙にすすんでいる。そんな状況の中、日本と日本人に何がいちばん必要かを考えてみたことがあるだろうか？ 日本の良さ、面白さ、そして日本の「当たり前」を、出来るだけ多くのヒトが草の根で海外に向けてしっかりと発信し続けること、であります。

どこからでも良いので、本書の学習したいページを携帯やスマホのカメラでパチリ！ 本文をテキストファイルとしたいヒトは、「カメラ アプリ OCR」で検索すると、写真の中の文字をワープロ編集可能なテキストに変換してくれる魔法のソフトがすぐ見つかります。本書付録のCDの音声を携帯やスマホやタブレット端末に録音して、通学の行き帰りの道すがらと、眠りにつく10分前に、毎日聴く。→ すると、…→ あら不思議！

26歳以下の若者なら誰でも、たった9ヵ月で英語が得意な自分に出会うことができます。ホンマ、です。本書の学習に加えて「毎日1分！英字新聞」のメルマガにも毎日親しむヒトは、たったの5ヵ月で英語達者です。ホンマのほんま、であります。

本書は、日本の代表的な名所旧跡を外国人観光客に英語で案内するための単なるノウハウ本ではなく、英語の学習に加えて日本の歴史、地理、民俗、習慣などのエッセンスを手際よく学べる、とても上質な内容も盛り込んでいます。東京五輪の開かれる年、自分が何人もの外国人観光客を楽しくエスコートしている、とホントのホントに思い込むと、効果は倍増。世界が百倍、広がります。

(総合経営学部 教授 下山 晃)



# みなさんからの声にお答えします

利用者アンケートに寄せられた疑問や要望のうち、特に数多く寄せられたものについてお答えします。(調査結果は図書館サイトに掲載しています)

1時限目の前に開館してほしい。  
部活の後にも利用したい。  
日曜日も開いていたら嬉しい。

ご要望にお応えし、より多くの方に役立つよう、この4月より開館時間を変更しました。  
どうぞご活用ください。

[平日] 7:00～22:00

[土・日・祝] 9:00～18:00

[休業期間] 9:00～20:00

※ 平日20:00以降、日祝日は2階のみ開館

うるさい人は注意してほしい

↑  
図書館員は歩き回らないでほしい

利用者の皆さんは、読書や学習に集中したい時に図書館を利用されます。安心して利用頂ける環境を保つため、見回りを行なっています。

巡回時にはなるべく場を乱すことのないよう気を付けますが、大声での会話や飲食・喫煙、貴重品の放置などを見かけた場合は声をかけることがあります。ご協力をお願いいたします。



館内の検索用パソコンからデータベースを使えるようにしてほしい。



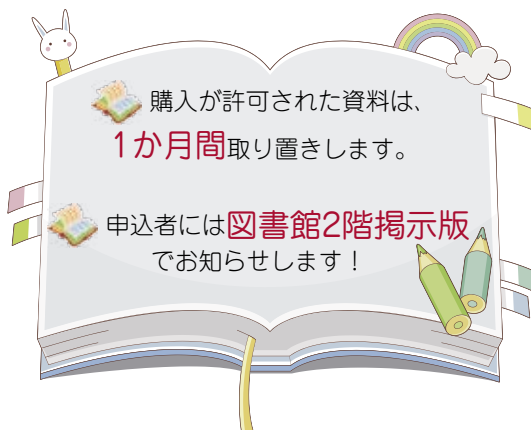
館内で見かける「検索用パソコン」は、多くの人に使用してもらう必要があります。

S-Naviや各種データベースを利用する際には、ノートパソコンをご利用ください。

パソコンは2階カウンター（図書館入口横）と6階カウンターで借りることができます。

新刊とか見に来ますが、残念ながら読みたい本が入っていないケースが多いです

学生の皆さんは、リクエスト制度を利用できます。館内に置いている「リクエストカード」に必要事項を記入し、2Fカウンターの「リクエストBOX」に投函してください。



# データベースを活用しよう 「ジャパンナレッジLib」

今回は、4月よりリニューアルされたデータベース「ジャパンナレッジLib」をご紹介します。

## メニュー画面

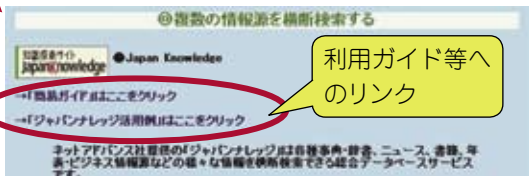
図書館ホームページトップ画面より下記の画像をクリックすると、一覧が表示されます。

契約データベース  
(学内利用)



メニューの「文字」をクリックすると、各データベースの説明にジャンプします。ここから**利用ガイド**を閲覧することもできます。

「ロゴ」をクリックすると、各データベースにアクセスします。



## 【トップ画面】



今回はいくつかの新機能が追加されました。

① 「**検索メニュータブ**」で、下記メニューを切り替えられます。

【**基本検索**】 調べたい言葉を入力すると50以上のコンテンツを一括検索できます。

## 【詳細検索】

複数の条件を重ね合わせて検索できます。コンテンツにより異なる範囲指定が可能です。

## ② ファセット検索

検索結果を分野やコンテンツの種類で仕訳し、利用者が必要な情報を絞り込む仕組みです。



## ③ ナレッジ・サーチャー

本文中で検索したいキーワードをマウスでなぞって反転表示させ、「Knowledge Searcher」ボタンを選択すると、すべてのコンテンツを対象とした検索結果が表示されます。

## 【本文表示画面】



## ④ 引用元挿入機能

本文をコピーし、任意のワープロソフトにペーストすると引用元の情報（項目名、コンテンツ名、データベース名（ジャパンナレッジ）、入手先URL、参照日時）が自動的に挿入されます。

詳細は、「**使い方ガイド**」（トップページ→各種資料/申込書→パンフレット）をご覧ください。

## 図書館インフォメーション

### ◆特設コーナー『新生活応援フェア』ご利用ください！

新入生のみなさん、新たに一人暮らしや就活を始めるみなさんにお薦めする本を、特設コーナーに集めました。初心者向けレシピや片付け術、勉強のコツなど、幅広く集めています。図書館2Fに展示しています。この機会に、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。（利用好調のため、貸出中の場合はご容赦下さい。）

### ◆2013年度 年間貸出ランキング

- 第1位 海賊とよばれた男；上 / 百田尚樹著（講談社，2012.7）  
第2位 海賊とよばれた男；下 / 百田尚樹著（講談社，2012.7）  
第3位 聞く力：心をひらく35のヒント / 阿川佐和子著（文藝春秋，2012.1）  
第4位 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら / 岩崎夏海著（ダイヤモンド社，2009.12）  
ロスジェネの逆襲 / 池井戸潤著（ダイヤモンド社，2012.6）  
陽だまりの彼女 / 越谷オサム著（新潮社，2011.6）  
第5位 何者 / 朝井リョウ著（白桃書房，2001.6）

### ◆2013年度下半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。（50音順 敬称略）

※配架場所は「本学教員著書コーナー」です。貸出もできます。

- 【岩井 紀子】 『多文化世界：違いを学び未来への道を探る』 有斐閣，2013.10.  
【坂田 幹男】 『北東アジア経済入門』 れんが書房新社，2000.4.  
『ベーシックアジア経済論』 晃洋書房，2013.8.  
『第三世界国家資本主義論』 日本評論社，1991.6.  
【谷岡 一郎】 『囲碁十九路盤の起源』（大阪商業大学アミューズメント研究叢書 第12巻）  
大阪商業大学アミューズメント産業研究所，2013.3.  
『EARLY HISTORY of GO』（大阪商業大学アミューズメント研究叢書 第13巻）  
大阪商業大学アミューズメント産業研究所，2013.3.  
【中津 孝司】 『ロスネフチの逆襲』 創成社，2014.2.

## 開館案内

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

●は休館日です。

上記以外にも臨時休館日进行を設ける場合があります。

開館日時は変更することがあります。

カレンダーは、図書館1F・ホームページで確認できます。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第44号 平成26年5月31日発行

大阪商業大学図書館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話 (06) 6781-5280 FAX (06) 6781-0089

e-mail : lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス : <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928